

新京都府総合総合計画実現のための中期ビジョン

「人・間中心」の京都づくり 5つのビジョン

信頼と絆による安心・安全、希望の京都づくり

セーフコミュニティ



京 都 府

安心・安全まちづくりプロジェクト

「セーフコミュニティ」って何？

- 事故・けがは偶然の結果ではなく、予防できるという理念のもと、京都府と市町村といった行政はもちろん、地域住民、NPO、関係民間団体など、多くの主体の協働により、府民の全てが健やかで元気に暮らすことができるまちづくりを進めるものです。
- これはスウェーデンの地方都市で始まった住民の手で安心・安全な社会をつくろうという運動で、これが体系化されたものです。
- 「みんなが事故・犯罪・怪我なく、安心して暮らしていくにはどうすべきか。」を地域住民が考え、力を合わせてその原因を取り除いていこうとするものです。

セーフコミュニティの歴史

{出典：(株)マチュールライフ 白石陽子 資料}

- 1975年 スウェーデンファルショッピングでセーフコミュニティのもととなる活動が始まる。新しいプログラムを導入するのではなく、既存の組織、機関、福祉機能を組み合わせる。
- 1978年 ファルショッピングで外傷の記録プログラムが開始される。
その後3年間で、職場、家庭、道路での外傷が約27%減少
- 1989年 スウェーデンのストックホルムで開催された第1回事故・外傷防止世界大会で「セーフコミュニティ」の概念が公式に誕生
この大会で、「全ての人間は、健康と安全に対して平等な権利を有する」とセーフコミュニティのための宣言がなされた。
- 1989年 WHO（世界保健機構）セーフコミュニティ協働センターが設置され、セーフコミュニティの認証が始まる。
- 1991年 ファルショッピングがWHOセーフコミュニティの認証を受ける。（5番目）
- 2006年 現在（5月末）まで、97のコミュニティがセーフコミュニティの認証を受ける。

■ 今世界で注目されており、WHOの取組として進められています。 ■

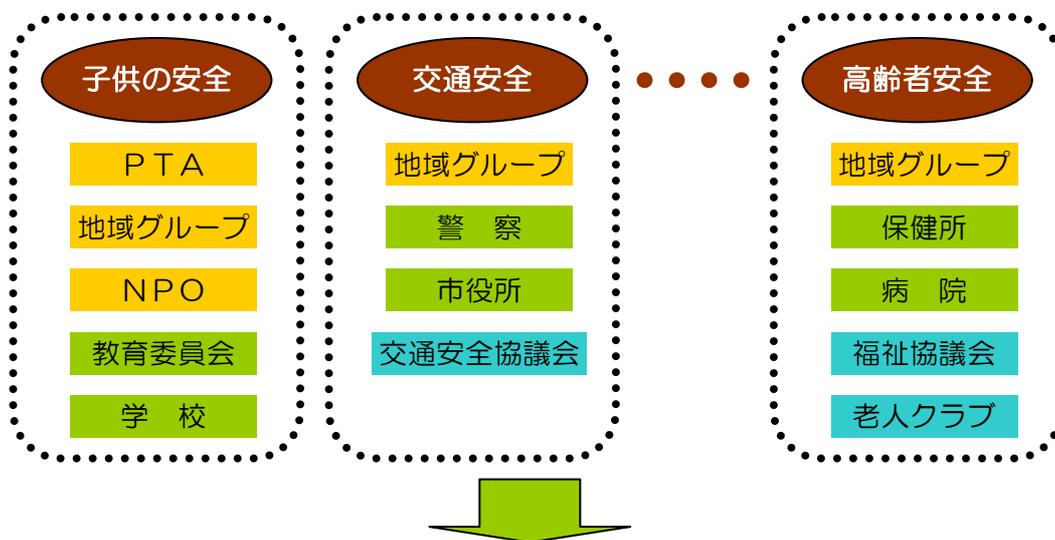
- 日本では昔から取り組まれてきたことで、地域の人達が助け合い、協力を積み重ねて、より健康で安心して暮らすためのもので、ちょっと工夫を加えるだけです。
 - 地域の実情を科学の目でチェック（事故や怪我のデータを把握・分析・評価）
 - 既存の様々な取組を1つに結集。そしてみんなで進めましょう！
- 地域のつながりが希薄化し、地域の力が衰退しつつあるところも多く、こうした取組を通じて、人と人とのつながりや地域の力を再生し、府民の皆さんとの協働により、安心・安全な地域づくりを進めるものです。

■ 地域の実情を科学の目でチェック ■

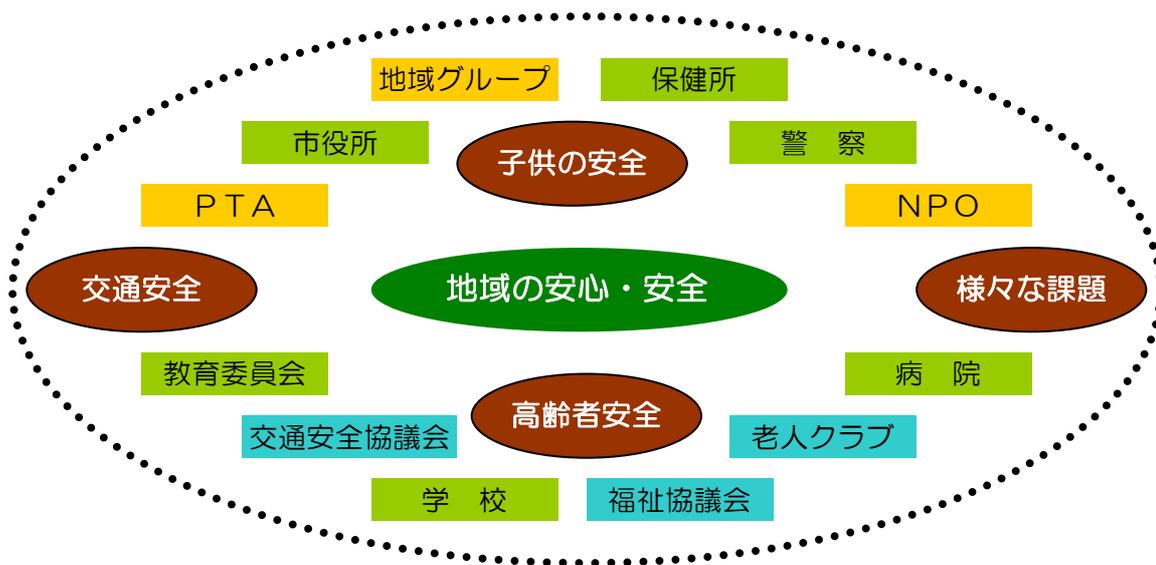
- 様々なデータや記録から、地域での事故やけがが「いつ」「どこで」「どのように」発生したのかを調べ、その原因を究明し、それを取り除きます。

■ 既存の様々な取組を1つの目的に向かって結集 ■

- 現在、多様な主体によって地域の安心・安全に関する取組が進められていますが、下図のようにそれぞれが連携せずに進められているのが実態ではないでしょうか。



- セーフコミュニティでは、各取組を進める既存の主体を横断的に連携させて、地域の安心・安全という共通の目標に向かって取組を進めます。



■ 取組事例 ■



子どもを守るスクールガード



転倒予防のための健康づくり体操

何に対する安心・安全なの？

- セーフコミュニティでは、事故によるけが、犯罪・暴力、自殺など、私たちの安心・安全な暮らしを脅かす全ての事象を対象とします。

事故	犯罪・暴力	その他
交通事故、転落・転倒、溺水、不慮の窒息、火災、不慮の中毒	他殺・傷害、薬物中毒、児童虐待、DV	自殺、PTSD、Trauma、災害 など

- これらの事故や犯罪などは、不運や偶然の結果ではなく、防止のためのプログラムの作成と実施により予防可能であるという基本的な考え方です。
- データ等に基づき地域の課題を抽出し、その原因を究明することにより、的確なプログラムを作成・実施していきます。もちろん地域が主体となって、これらを実施していきます。

 僕たちの町では、自転車事故が多いけど、どうしてだろう！？

 あと、お年寄りの方たちの交通事故も増えてきているらしいよ。

 事故の多い場所を調べてみようよ！ そうしたら原因がわかるかもしれない。

 そうね！ いい対策も見つかるかもしれないね！

■ 安心・安全を脅かす原因は環境や年齢によって異なります。 ■

- 年齢層や環境毎に課題を調べ、それらを取り除くことが安心な地域づくりとなります
- 例えば、京都府の外因による年齢層ごとの主な死亡原因は次のとおりで、各年齢層間で大きな差が見られます。

0～4歳	誤飲などによる窒息死、溺死
5～14歳	溺死、交通事故
15～19歳	交通事故、自殺
20～64歳	自殺、交通事故
65歳～	窒息や転倒・転落、自殺

- そして、これらが発生する場所も異なり、家庭、道路、学校、職場、スポーツ、レジャー施設など、それぞれに適応した対策が必要になります。
- また、課題は地域によって異なり、都市部と郊外、北部と南部、山間地と平地など自然環境や社会条件によって、事故の種類や原因の頻度に差がでてきます。

どんな効果があるの？

- 人と人との信頼と絆を回復し、地域の力を高め、安心して安全なまちづくりを進めることにより、次のような効果が期待できます。



外傷や事故が減ります。

セーフコミュニティの先進地であるスウェーデンなどでは、この取組を進めることにより、外傷や事故が約30%も減少しています。



地域のイメージアップ

心の通う安心・安全なまちづくりが進み、地域のイメージアップが図られます。



地域の再生

セーフコミュニティは人と人とがお互いに信頼しあえる地域を再生し、安心して安全に暮らせるまちづくりを進めるものです。



医療費等の削減

事故や外傷の減少により、医療費や介護費用を削減することができます。そしてその予算を、子育て支援など他の事業に活用することが可能になります。

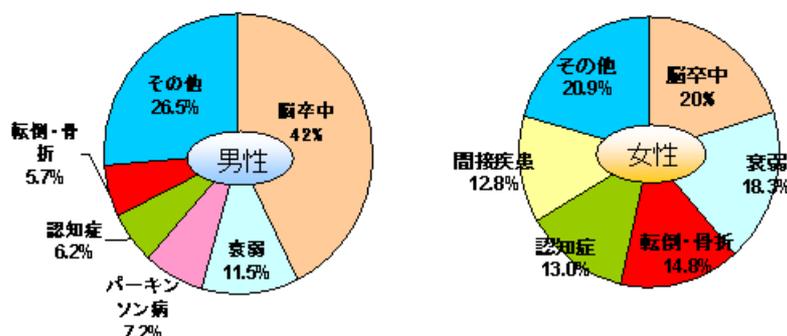
■ 計算してみましょう！ ■

- 例えば、京都府全域でセーフコミュニティが広まり、高齢者の転倒予防が進み、30%の転倒事故が予防できたら、介護費用はどのくらい削減されるでしょう。
 - 下のグラフのとおり、介護が必要となって理由を見てみると、転倒・骨折が女性で14.8%、男性で5.7%です。
 - 京都府の要介護（要支援）認定者は約86,600人で、上記の比率から転倒・骨折が原因で要介護（要支援）に認定された方々は約1万人と算定されます。
 - セーフコミュニティにより3割の転倒・骨折予防ができるとすれば、約3千人の方の介護を予防できることになります。
 - つまり、3千人の方の介護が不要になり、3千人分の介護費用である、年間約50億円が削減されます。

削減額【試算】

3,000人 × 139,800円（一人当たり介護費用平均月額） × 12月 = 約50億円 / 年間

図 介護が必要になった理由（出典：平成13年国民生活基盤調査）



どうやって進めるの？

1 持続可能な推進体制の構築

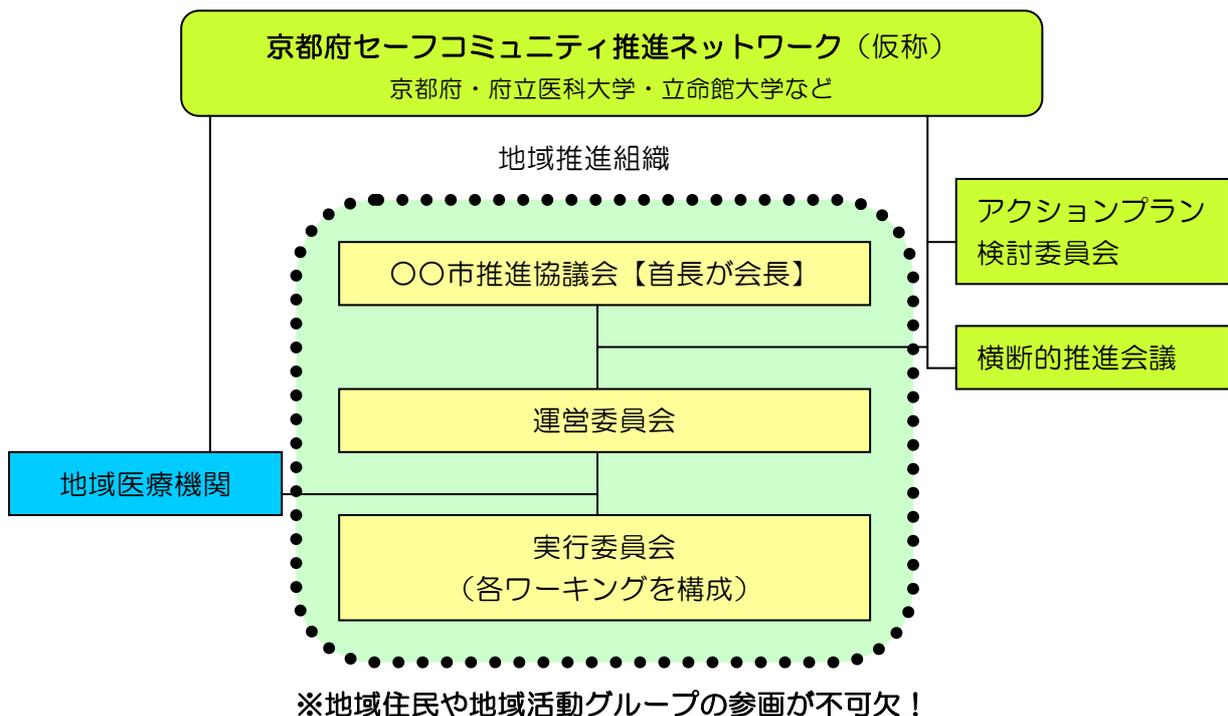
- 取組を推進するために既存の組織を活用・連携させ、組織・部門横断的な組織を立ち上げます。
- 住民、行政、企業などあらゆる分野、部門の人達が地域の課題解決に対して何が出来るかを考え、「健康で安心して暮らせるまちづくり」という共通の目標に向かって、協力しあって不安材料を除去していきます。

【推進体制構築のポイント】

- 市町村の首長のリーダーシップ
- 地域住民の参画と協働
- 既存の地域活動グループの参画と連携
- 実行組織への市町村や国、府の地方機関、警察、大学、医療機関、地域住民、NPOなどの参画

- 新たな実施主体をつくるのではなく、今の実施主体が横断的に連携し、住民との協働により更なる推進を図るものです。
- 京都府では下図のような、組織・部局横断的かつ住民参画による推進体制を構築し、京都府、市町村、地域住民との協働によりセーフコミュニティを推進していきます。

■ 京都府での推進体制(提案) ■

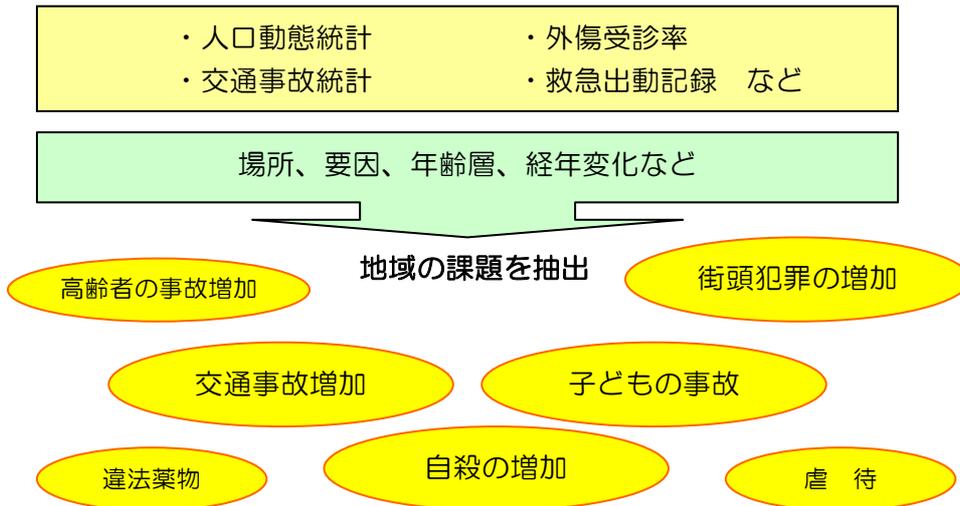


2 地域課題の抽出

- 利用可能なデータを使って、どんな外傷や事故が多いのか地域を診断します。
- できるだけ詳しいデータを集めて、外傷や事故の要因、場所、年齢別、経年変化などを分析することにより、的確なプログラムの作成が可能になります。
- 地域の課題は地域が決めます。

■ 地域課題の抽出 ■

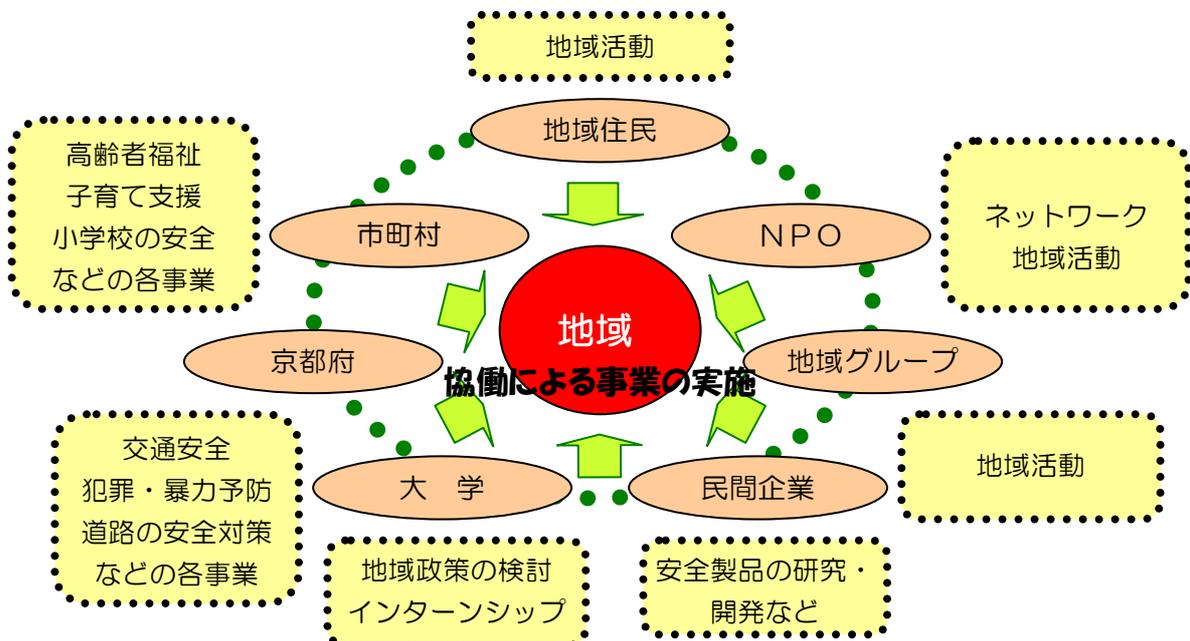
利用可能なデータを使って地域を診断



3 地域課題及びその分析結果からプログラムを作成・実施

- 地域の診断結果に基づき、地域でプログラムを作成します。そして、行政、住民、NPO、企業、大学などが役割分担して、プログラムを実施していきます。
- 実施に当たっては既存の取組や制度を活用し、そして効果を検証しながら、プログラムを見直し、安心に暮らせるまちづくりを推進していきます。

■ 地域活動のイメージ ■



WHOセーフコミュニティ協働センターによる認証

- WHOセーフコミュニティ協働センターでは、認証の指標を設けており、これに取り組むコミュニティは認証を受けることができます。

認証基準

1. 性別、必要となるすべての年齢層、環境及び状況をカバーする長期的かつ持続可能なプログラムを持つこと。
2. ハイリスクグループや環境を対象とするプログラム及び被害を受けやすい弱者グループのための安全を促進するプログラムを持つこと。
3. 外傷の頻度と原因を記録するプログラムを持つこと。
4. 地域のセーフティプロモーションに責任を持つ横断的な推進体制を構築し、住民との協働に基く活動基盤を持つこと。
5. プログラム、プロセス、変化の諸効果をアセスメントする、評価手段をもつこと。
6. 国内的、国際的なセーフコミュニティネットワークに参加していること。

- 少し、難しいことが書かれていますが、地域住民の皆さんと行政や様々なグループの人達が力を合わせ、地域の安心・安全に取り組まれていれば、大丈夫です。



■WHO コミュニティ・セーフティ・プロモーション協働センター(WHOCC 協働センター)■

(WHO Community Safety Promotion Collaboration Center)

{出典：(株)マチュールライフ 白石陽子 資料}

- カロリンスカ研究所（医科大学）社会医学部公衆衛生科学学科安全向上調査グループに設置
【役割】

1. 世界の SC、SC 支援センター、認証センターのコーディネーション
2. SC との共同による国際学会、地域学会の企画・準備
3. 傷害防止・安全向上に関するトレーニングコースのコーディネーション
4. 「セーフコミュニティウィークリーニュース」の発行
5. 隔年開催の「傷害防止及びコントロールに関する世界大会」など他の学会との連携
6. コミュニティプログラムのためのネットワークの組織化
7. スウェーデン自転車ヘルメット着用状況調査や WHO への参加

セーフコミュニティは、あなたの大切な家族、友だち、恋人が事故、犯罪、暴力、災害や病気などで苦しむことなく、いつまでも笑顔でしあわせな生活を送ることができる地域（環境）づくり

WHO セーフコミュニティ協働センター シニアディレクター Dr Bo Henricson

京都府の外傷に関するデータ

■ 京都府死因別死亡者数(平成15年度) ■

(出典：平成17年 人口動態統計)

- セーフコミュニティで対象とする外傷は、上位10の死亡原因のうち、5番目の「自殺」と6番目の「不慮の事故」です。
- この他の外傷としては、「他殺」や「その他の外因」があり、これらの全ての外傷による死亡者は、1,313人となり、全死亡者数20,669人の6.3%に当たります。

死 因	死亡者数	備 考
1 悪性新生物	6,480人	
2 心疾患	3,381人	
3 脳血管疾患	2,566人	
4 肺炎	1,976人	
5 自殺	602人	セーフコミュニティで対応する課題
6 不慮の事故	601人	
7 腎不全	432人	
8 老 衰	393人	
9 慢性閉塞性肺疾患	302人	
10 肝疾患	293人	

■ 京都府各年齢層別死亡原因上位5 ■

(出典：平成17年 人口動態統計)

- 各年齢層別の死亡原因を見てみると、60歳未満で「不慮の事故」と「自殺」が死亡原因の上位を占めているのがよくわかります。
- 特に20歳代では、死亡者の5人に4人が外傷が原因で死亡しています。
- 不慮の事故と自殺が対策すべき問題であることは明らかです。

年齢層	1位	2位	3位	4位	5位
0~4	先天奇形	周産期の病体	不慮の事故	肝疾患	突然死症候群
5~9	不慮の事故	悪性新生物	先天奇形等	その他新生物	急性気管支炎
10~19	不慮の事故	自殺	心疾患	悪性新生物	脳血管疾病他
20~29	自殺	不慮の事故	悪性新生物	心疾患	肺炎他
30~39	自殺	悪性新生物	心疾患	不慮の事故	脳血管疾患
40~49	悪性新生物	自殺	心疾患	脳血管疾患	不慮の事故
50~59	悪性新生物	心疾患	自殺	脳血管疾患	不慮の事故他
60~69	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	自殺	肺炎
70~79	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	不慮の事故
80~89	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	腎不全
90~	心疾患	肺炎	脳血管疾患	悪性新生物	老 衰

セーフコミュニティの意義と効果

●地域の安心・安全を住民の手で！

現代版地域の絆再生



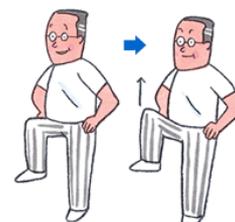
WHO認証は更なる活動のきっかけ → 住民意識の更なる喚起
→ やる気、やりがいへ

●効果の検証が容易に！

地域の課題をデータに基づき科学的にチェック！



取組の必要性効果を共通の認識に！



●医療や介護に要する行政費用の軽減に！

全ての外傷は予防できる！



貴重な財源を

新たな課題へ投入！



●安心・安全 京都 を世界へ発信！

WHO 認証後も活動・経験を世界で共有

京都モデルを
世界に！



●これが相俟って、更なる取組へ！

安心・安全、地域再生へ
好循環の構築・確立



京都の経験を国内、世界へ！



セーフコミュニティに関する様々な情報をホームページでお届けしています。

セーフコミュニティホームページアドレス
<http://www.pref.kyoto.jp/k-san/safecom/index>

【セーフコミュニティに関するご意見・お問合せは】

京都府安心・安全まちづくりプロジェクト

(企画環境部企画参事)

〒602-8570 京都市上京区下立売新町西入 府庁1号館5階

(地下鉄丸太町から北西へ徒歩10分)

TEL:075-414-4344

FAX:075-414-4389

京都府ではセーフコミュニティに取り組む市町村を募集しています。

セーフコミュニティに関心を持たれている市町村や地域グループの方などからの、ご質問、ご意見や提案などをお待ちしております。お気軽に御連絡ください。